国鉄労組大牟田駅分会の青年部は、駅にこのようなアピールを掲げ、平和を守るための固い決意を示している。

六月の暦（みなづき）

1日　気象記念日。この日写真、電波の日。鮎漁解禁。
4日　虫歯予防デー（歯の衛生週間スタート）。この日近江絹糸の人権スト（一九五四＝昭和二十九年）。
5日　ヒ種。世界環境デー（環境週間スタート）。
6日　三池炭鉱は特定休日。
7日　計量記念日。
8日　虫供養。
10日　時の記念日。
11日　入梅。
15日　この日、安保改定阻止統一行動（一九六〇＝昭和三十五年。同十九日、新安保条約自然成立）。
17日　宮浦鉱長室に座り込む組合員に、福岡県警弾圧を加える。逮捕者二十一人。（一九六九＝昭和四十四年）。
18日　海外移住の日。父の日。夏至。
21日　沖縄慰霊の日。この日オリンピックデー。
23日　救ライの日。
25日　貿易記念日。
28日　大祓。
30日

諏訪川尻、鉱害で三井を追及

六月上旬に話し合う

三井鉱山、調査を確約

本紙が前号で伝えたように、諏訪川尻校区地域分会は、鉱害問題の解決をめざしてがんばっているが、このほど三井鉱山との間に団体交渉をもち、その責任を明らかにすることと同時に、いそぎ被害対策を立てるよう要求した。同鉱山は、調査すると確約した。

団体交渉は、五月二十日三池鉱業所の一室で行われた。

交渉には、諏訪川尻校区地域住民三十人がのぞみ、三井鉱山側からは井上総務課長をはじめ五人の代表が出席した。

交渉事項は述べるまでもなく、新港社宅入口の水害とそのほかの鉱害を発生させた責任を明らかにし、被害対策を講ずることで、その日のおもなやりとりは次のようなものだった。

やりとりは？

――先の浸水について、鉱山の態度を明らかにしてほしい。

鉱　山　大雨で道路が軟弱なためあふれ、市から、道路をカサあげするから、側溝の水を三井の排水路に流しこむ申し入れがあり、暗渠をつくることにした。坑内排水なら現状でいいと思う。

――三井の責任は？

鉱　山　自然災害と思っている。

――（住民の間に怒り高まり）鉱山の主張する通りなら、今さら住民に迷惑をかけ、道路を掘りくり返してまで暗渠（一・五メートル×一・五メートル角）などつくる必要はないはずだ。

鉱　山　……。

――各企業の排水体制はどうなっているか。

鉱　山　自然排水になっている。

――自然排水には限界がある。周辺には貯炭のヤマや、多くの企業がある。今までサボっていたそれらの排水対策のための、暗渠づくりのはずだ。

鉱　山　……。

――暗渠はいつできたものか、知っているか。つまって水の流れの悪いことを知っているか。

鉱　山　資料が手もとにないので……。

――浸水したのは雨水ではなくて粉炭と油だ。（証拠の写真を提示）私の家の床の下にはいっていたのはこれだった。

鉱　山　調査をして返事したい。

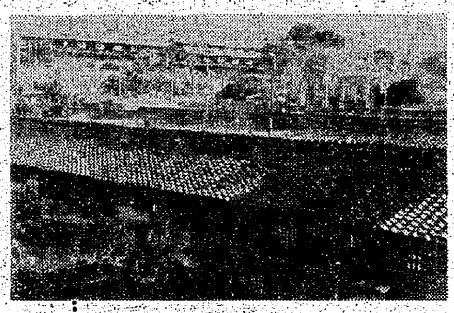
――調査はすんでいるはず。責任をどうするか。

――さらに、小川埋立地に積んであるコークス・石炭の粉塵が飛び、小浜、白金、小川開、千代町、諏訪町一帯は被害をこうむっている。対策を考えてほしい。

×

以上のやりとりの末、三井鉱山は初め「自然災害」を主張していたにもかかわらず、住民の正当な意見の前にそれを押し通すことができず、①六月上旬に話し合う。②今日の意見をふまえて調査する――ことを確約して終った。

同地域分会は、怒りを倍にして今後も追及していくといっている。



社宅の惨状。これが炭鉱労働者の住居とは。

三池闘争の記録文集――「あのとき私は」を読もう

組合本部に残部があります

三池闘争の血の思い出を刻んだあの〝あのとき私は〟は、発行と同時に購読者が殺到、たちまちのうちに残り少くなりました。

現在、三池労組本部に幾らかの残本がございますので、ご希望の方は一日も早く総務担当者（田中さん）までご連絡ください。一人でも多くの人に読んでもらいたく思います。

×

ところで今回、この本について福岡県鞍手郡宮田町上大隈の石炭記念館の井上芳邦館長からご丁寧な読後感が寄せられました。次に抜すいしてお伝えします。

「……一気に拾い読み致しましたが、胸つまる思いでした。私も昭和二十二年から組合活動に参加し、執行部に籍を置き、いろんな闘争に参加した経験があり、二十六年よりは政治局員とのダブル期間がありました。三十年以降は政治局長として政策転換闘争での抗議行動など、三池の政治局員などと共闘も経験しておりますので、文中になつかしい名を見出して、しみじみと拝読しております。記念館でも良き記念の資料として、永久に保存します。

会社側のあくなき切り崩しに、もろくも裏切った菊川君など、九炭労大会で共に議長をつとめたのですが、彼が豹変するなど当時は予想もできず、残念です。組合員激減の中で、しかも第二組合があるだけに想像以上の苦悩があると存じますが、伝統の力で頑張り抜いてください。（後略）」

詩　炭鉱育ち（やま）

職場24分会（本所）

杉野栄治

あれは去年の秋のこと
潮湯の里に来て見れば
河内は湯の町温泉まつり
みかんの里も招きます
入江の海に泊り船
浜辺のかおり港町

家族ぐるみのバスの旅
なつかしい人の顔と顔
握手と共に仲間の匂い
帽子に手袋ハイヒール
大島紬に白足袋そえて
あれは令嬢か貴婦人か

登る坂道手をひいて
食べ放題のみかん狩り
味にひかれてみかんの木
「かあちゃんこっち」と呼び合って
摘めば女房の手のひらへ
カメラもうらやむ夫婦仲

OBまじりに勢ぞろい
肩寄せ合ってほほえんで
記念写真も撮りました
団結誓うビールの乾杯
広間の一室同志の世界

肥後の潮湯は長寿のクスリ
千両のうた万両のおどり
言葉なまりは〝三池〟の育ち
笑いこければ福引もある
「それじゃ元気でさようなら」
別れの言葉が身に残る

今は春闘に政策闘争
みかんの花が咲きました

×

新聞〝ほんしょ〟（職場二十四・二十五分会共同＝本所。五月二十五日発行から）一部時節にあわせ改めさせていただきました。

――編集部

女の見る目

早いもので、去る二十四日は亡き友の初月忌命日でした。何はともあれのこされたご家族への激励と、大事な主婦を亡くして男ばかりの家庭におなりになった、ご不自由な台所仕事の手伝いに、とかけつけたところです。

先月（四月）の二十四日の朝、突然の訃報に接しました。とるものもとりあえず、仲間とかけつけました。

聞けば心臓発作だったとか。病院にはいってから、あれもこれもと気にしながらも十二時間後には息をひきとられたとのこと。あのときひとこと電話をいただければ……、とは今になってからの悔み話です。

坂井ミスエさんは、私にとっては友というよりも、よき先輩でした。身をもって、主婦会や婦人運動のための活動を常に教えていただいたものです。かけがえのない人であっただけに、

今は亡き友を思う

東ブロック　平川弘子

思いがけないとき、まだ五十九歳という若さで他界されたことが残念でありません。きっと、ほかの仲間も同じ思いだったことと思います。

三池主婦会結成後は自らその分会役員を、または班長を、本部の副部長を、というようにその時その時、進んで大衆の手足となって活動してこられました。先だって行なわれた憲法改悪阻止、平和を守る筑後集会や九州ブロック集会へも、進んで参加しておられ、ともに手を取りあってデモ行進もいたしたのでした。それが最後となったのです。

坂井さんは、亡くなられましたが、思い出は尽きません。とくに毎年大牟田現地で開かれる〝三池にまなぶ婦人集会〟には、必ずやってきていただき、三池主婦会誕生以来の苦しかった活動など大事なお話を聞かせてくださったのに、きたる六月二十日から同二十二日にかけて行なわれる今年の集会には、早や、お姿を見ることができないのです。

今はせめて、友の死を悲しむだけでなく、ご冥福をお祈りすると同時に、故人から学びえたことを今後の活動に生かしながらがんばることをお誓いしたいと思っています。

それにしても活動するには健康が何よりです。お互いにからだに気を配りながら前進いたしましょう。

×　×